

#### 6. 南東北がん陽子線治療センターにおける食道癌に対する化学陽子線療法の遡及的治療成績

研究課題名	南東北がん陽子線治療センターにおける食道癌に対する化学陽子線療法の遡及的治療成績		
研究機関名	脳神経疾患研究所附属 南東北がん陽子線治療センター		
	研究責任者名・所属	放射線治療科 田中 和典	
研究の目的	食道癌に対する化学陽子線治療の有効性及び安全性を評価する。		
研究の方法	対象となる患者さん	2013年1月～2016年3月までに陽子線治療及び化学療法（FP療法）の同時併用療法を施行した食道癌50症例。	
		研究対象期間	2013年1月～2016年3月
	利用するカルテ情報	診断名、年齢、性別、陽子線治療・有害事象に関する情報	

#### 5. 特発性肺線維症合併症例に対する陽子線治療の後方視的研究

研究課題名	特発性肺線維症合併症例に対する陽子線治療の後方視的研究		
研究機関名	脳神経疾患研究所附属 南東北がん陽子線治療センター		
	研究責任者名・所属	放射線治療科 小野 崇	
研究の目的	特発性肺線維症に併発した肺悪性腫瘍症例に対する陽子線治療の安全性について検証する。		
研究の方法	対象となる患者さん	①肺悪性腫瘍と診断されたリンパ節転移・他臓器転移の無い患者。 ②パフォーマンスステータス0-2の患者 ③CTにて、肺底部・胸膜下優位の両側性蜂巣肺を有する患者 ④2009年1月1日～2015年12月31日の間に特発性肺線維症合併肺癌症例に対して陽子線治療を実施した患者。	
		研究対象期間	2009年1月1日～2015年12月31日
	利用するカルテ情報	診断名、年齢、性別、陽子線治療・有害事象に関する情報	

#### 4. 高齢肺癌症例に対する陽子線治療の後方視的研究

研究課題名	高齢肺癌症例に対する陽子線治療の後方視的研究		
研究機関名	脳神経疾患研究所附属 南東北がん陽子線治療センター		
	研究責任者名・所属	放射線治療科 小野 崇	
研究の目的	高齢肺癌症例に対する陽子線治療の有効性と安全性を後ろ向きに評価する。		
研究の方法	対象となる患者さん	①肺癌と診断されたT1-4N0M0（2009年UICC/TNM 分類の肺癌）である患者。 ②治療開始時に80歳以上であること。 ③2009年1月1日～2015年4月30日の間に肺癌に対して陽子線治療を実施した患者。	
		研究対象期間	2009年1月1日～2015年4月30日
	利用するカルテ情報	診断名、年齢、性別、陽子線治療・有害事象に関する情報	

### 3. 切除不能かつ化学療法非奏功または不耐例の肝内胆管癌に対する陽子線治療の多施設共同研究

研究課題名	切除不能かつ化学療法非奏功または不耐例の肝内胆管癌に対する陽子線治療の多施設共同研究		
研究機関名	脳神経疾患研究所附属 南東北がん陽子線治療センター		
	研究責任者名・所属	放射線治療科 鈴木 志恒	
研究の目的	切除不能かつ化学療法非奏功または不耐例の肝内胆管癌に対する陽子線治療の有効性を多施設共同にて評価する		
研究の方法	対象となる患者さん	切除不能かつ化学療法非奏功または不耐例の肝内胆管癌患者	
		試験実施期間	2016年12月5日～6年間
		登録期間	4年間
		追跡期間	2年間
	利用するカルテ情報	診断名、年齢、性別、陽子線治療・有害事象に関する情報	

### 2. 切除不能/拒否 I 期非小細胞癌に対する陽子線治療の多施設共同後向き観察研究

研究課題名	切除不能/拒否 I 期非小細胞癌に対する陽子線治療の多施設共同後向き観察研究		
研究機関名	脳神経疾患研究所附属 南東北がん陽子線治療センター		
	研究責任者名・所属	放射線治療科 和田 仁	
研究の目的	切除不能/拒否 I 期非小細胞癌に対する陽子線治療の有効性と安全性を、多施設共同にて後向きに評価する。		
研究の方法	対象となる患者さん	(1)2004年4月から2013年12月までの間に、陽子線治療を施行した20歳以上の患者。ただし、期間のはじめに関しては研究参加施設により異なる。	
		(2)選択基準（すべて満たす必要あり） ①臨床病期 I 期の非小細胞肺癌あるいは臨床診断にて非小細胞肺癌と診断されている患者。 ②陽子線治療開始時20歳以上の患者。	
		研究対象期間	2004年4月～2013年12月
	利用するカルテ情報	診断名、年齢、性別、陽子線治療・有害事象に関する情報	

### 1. 局所限局性前立腺癌に対する陽子線治療の多施設共同後方視的研究

研究課題名	局所限局性前立腺癌に対する陽子線治療の多施設共同後方視的研究		
研究機関名	脳神経疾患研究所附属 南東北がん陽子線治療センター		
	研究責任者名・所属	放射線治療科 和田 仁	
研究の目的	局所限局性前立腺癌に対する陽子線治療の有効性と安全性を、多施設共同にて後向きに評価する。		
研究の方法	対象となる患者さん	以下の条件をすべて満たす患者 (1)前立腺生検（経会陰式、経直腸式いずれも可）による病理組織学的に前立腺癌（腺癌）と診断されたT1-3N0M0（2009年UICC/TNM分類の限局性前立腺癌）である患者。 (2)初発の前立腺癌で、当該病変に対する手術療法（前立腺被膜下摘除術、除鞅術等）、化学療法の治療歴がなく、ホルモン不応性癌ではない患者。 (3)2008年1月1日～2011年12月31日の間に、前立腺癌に対して陽子線治療を実施した患者。	
		研究対象期間	2008年1月1日～2011年12月31日
		利用するカルテ情報	診断名、年齢、性別、陽子線治療・有害事象に関する情報